校長の生徒・先生応援日記 Vol.37

学びの匂い

英語の耳を作る Global English Camp

本コラムでは、タイトルにちなんだ私の苦い思い出話を紹介します。今から４８年前、小学校の卒業式が数日後に迫っていたある日のこと、友達の家へ遊びに行った私は、居間に堂々と置かれた木目調の大きなステレオが気になりました。これはどうやって音を出すの？私の問いかけを待っていたかのように、友達が意気揚々と一枚のレコードを取り出し、曲を聞かせてくれました。哀愁漂うピアノの音色で始まるこの歌は、仲間との別れを惜しむ卒業の時期にとても合う曲調で、歌詞の意味が分からなくても自然と涙がこぼれました。私は、この曲が頭から離れず、どうしても手に入れたかったのですが、当時、レコードは、小学生がお小遣いで買えるほど安価なものではなく、専らラジオから流れたタイミングでカセットテープに録音して楽しむしかありませんでした。

私は、ラジオ局に何度もハガキを送りリクエストしましたが、既に発売から５年以上経過していたため、残念ながらこの曲が流れることはなく、いつでも自由に好きな曲を聴くことができる友達を羨ましく思いました。このことが影響してか、父親に譲ってもらったラジオ付きのカセットテーププレーヤーから聞こえてくる音も不明瞭で籠っているように聞こえてしまい、ステレオで音楽が聴きたいと思う気持ちを日に日に抑えられずにいました。

その後、小学校を無事に卒業した私は、思い切って父にレコードをせがむと、中学生から学ぶ英語の勉強に役立てることを条件に、小型のプレーヤーと一緒に買ってくれたのです。ついに私は、いつでも綺麗な音源で聞くことができる音楽を手に入れるとともに、勉強を理由に英語の歌詞で歌うことが日課となりました。曲が終わるとレコードの針を最初の位置に戻す手間も、自由に音楽を楽しめる道具を手に入れた喜びが上回り、何度も何度もこの動作に明け暮れました。

ある時、この曲のサビにある「Let it be♪～」が「レリビー」としか聞こえないことに気が付き父に尋ねました。父は、「レットイットビーと聞こえるよ。」と迷わず答えたので、私は五百円硬貨ほどの大きさしかないスピーカーに耳を近づけ、何度も聞き返しました。しかし、バチバチと針が擦れる雑音の中から届くボーカルの声は、やはり「レリビー」としか聞きとれません。父と私で聞こえる音が違うのは、三半規管が未発達だからと勝手な自己暗示をかけ、歌詞カードに「レットイットビー」とカタカナで書き足し、すっきりしないまま字余りで歌い辛さを感じながら歌い続けました。このことは、後に「ｔ」の前後の母音により、「ラリルレロ」と発音が変化するリエゾンを知ったことで笑い話となりましたが、学生時代に学んだ英語の成果をこの年になっても体感できず、英語が話せたら、どれだけかっこよいか、こんな思いを抱き続け、今に至っています。

令和７年 11 月、恒例のグローバルイングリッシュキャンプが始まると多くの外国人留学生をお迎えしました。各教室では、生徒が文法に頼ることなく、勇気を出して意思疎通を図ろうと努力しています。私が経験したように、単語の音声変化でうまく聞き取れずに苦しむ生徒もいたことでしょう。それでも留学生が話しかけるネイティブな発音を自分のものにしようと、必死に耳を傾ける意欲は、学びの匂いとなり教室中に充満していました。

家に帰った私は、押し入れの奥深くに眠るレコードを引っ張り出し、ジャケットの裏面に印刷された歌詞の上に当時のまま残っているカタカナで書かれた「レットイットビー」の文字を見つけました。私は、二重線を引き、「レリビー」と書き加え、直ぐにCDで曲をかけました。そして、Let it be♪Let it be♪（レ リ ビー　レ リ ビー）と何度もサビの部分を放歌高吟し、今はしっかりと聞き取れる喜びを噛みしめました。

令和７年１１月